

【親鸞部門（中学生）・奨励賞】

未来のために

私立札幌大谷中学校 第2学年 對馬 ほの花

「君がどんなに遠い夢を見ても君自身が可能性を信じる限り、それは手の届くところにある。」これはドイツ文学を代表する文学者ヘルマン・カール・ヘッセの言葉である。

勉強が辛いと感じたことは多くの人を経験しているだろう。私はその感情とよく立ち向かっている。頑張れば頑張るほど壁は高くなる。それを楽しいと思うことができればそれで良いのだろう。だが、そう簡単にはいかず落胆する。そんな時、母が教えてくれた言葉だ。諦めなければ大丈夫だと自信がつく。いつか高くした壁を乗り越えられるように、目標も高くしておきたい。

「勉強って何のためにするの？」

小さい頃の自分もそう思っていた。そんな言葉を聞いた時、何を考えるか。自分自身のため、大切な人を守るため、など様々な理由が挙げられる。今の私は、生きていくため、そしてより良く生活するためだと考える。私にとっての世界は「生きていく人のための場所」だから。

この世界には、生きたいのに生きられない人もいれば、生きていることに苦しんでいる人もいる。世界には生きている者しか存在することができない。だからこそ、そんな人々のために沢山の人が努力している。生き抜くために、現状をより良くするためには勉強は必要だ。この大きな世界を変えるには、社会に重大な影響を与えることが不可欠なのだ。生きている間にオリジナリティに溢れたものを表現することができるのであれば、それは人々の発展へと繋がる。

これから先のこの世界も、全て希望ある今の私たちのものだ。大切なものを後世に残せられるように様々な問題に目を向けていかなければならない。私はこの世界が幸せであるように貢献することを目指し、未来のための仕事をしたい。可能性を信じる限り。